

トップガンジャーナル



Journal of TopGun

平成 31 年 3 月 22 日 第 53 号

活動レポート

プレゼンテーションスキルアップ講座

平成 30 年 12 月 16 日(日) 課外講座「プレゼンテーションスキルアップ講座」が静岡大学浜松キャンパス浜松キャンパス共通講義棟 31 教室(浜松市中区城北 3 丁目 5-1)で行われました。

講師の先生は、静岡大学教育学部准教授中村美智太郎 先生(西洋哲学・倫理学)です。受講者は、平成 31 年 1 月 27 日(日)の理科研究プレゼンテーションコンテストに出場する小中学生を中心に 59 人が参加し、伝えるスキルを学びました。

	小学校	中学校	計
浜松市	8	37	45
湖西市	2	3	5
磐田市	2	2	4
袋井市	1	0	1
掛川市	2	0	2
島田市	0	1	1
静岡市	1	0	1
計	16 名	43 名	59 名



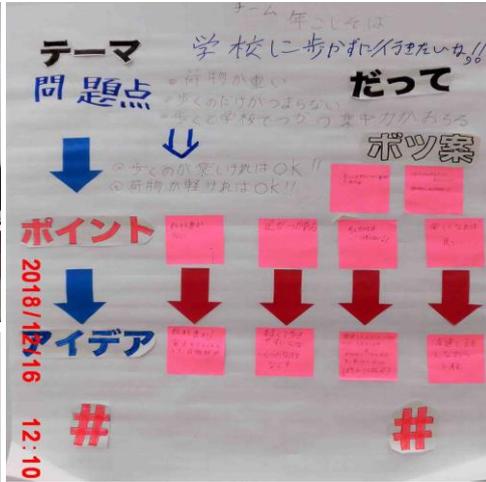
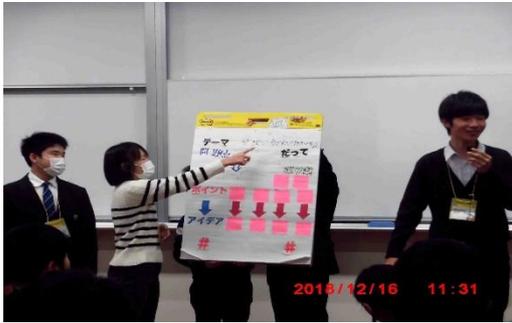
<議論の進め方について 講義の様子>

はじめに中村先生は、大事なことは対話であり、語り相手の話を否定せずに耳を傾けるよう呼びかけられるなど、議論のレッスンを座学で教わりました。

その後、受講者は、4 人から 6 人のグループに分かれ、日常生活などの不便さをテーマにあげ、その解決策についてどうすれば障壁がクリアできるかアイデアを出し合った。先生からは、プレゼンテーションの資料作りに際しても、心に響く言葉「パワーワード」を使いシンプルに分かりやすくして」とアドバイスをいただきました。

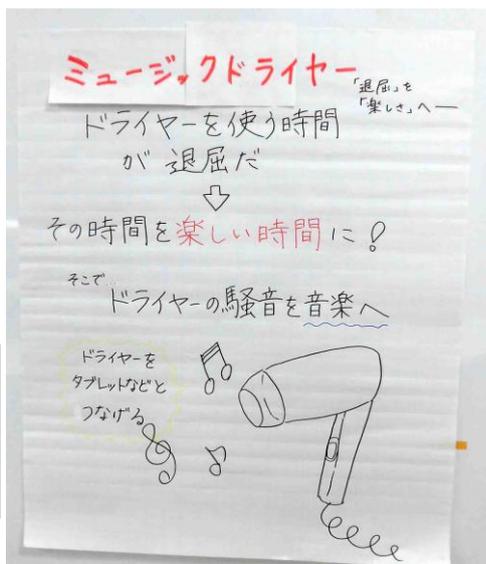
以下は各班ごとに考えたテーマと発表のようすです。

① チーム名「年こしそば」 テーマ:<学校に歩かずにいきたいな!!>



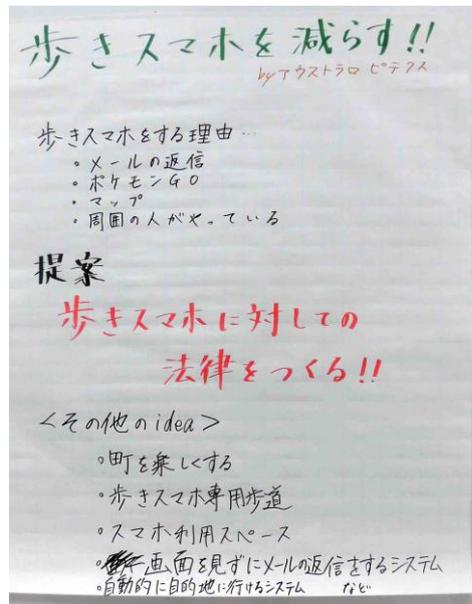
1	齋藤 拓斗	西都台小学校
2	金子 茉愛	平山小学校
3	堀田 智仁	曳馬中学校
4	鈴木 伊織	附属浜中学校
5	阿部 宏紀	東部中学校

② チーム名「にぼし」 テーマ:<ミュージックドライヤー>



1	佐野 百恵	静岡サレジオ小学校
2	村田 湖町	白須賀小学校
3	中村 栄介	積志中学校
4	鈴木 葵	附属浜中学校

③ チーム名「アウストラロピテクス」 テーマ:<歩きスマホをへらす!!>



1	桂 春乃	北浜北小学校
2	那須田 樹	篠原小学校
3	竹内 優月	附属浜中学校
4	小林 慧	東部中学校
5	日下部 大和	積志中学校

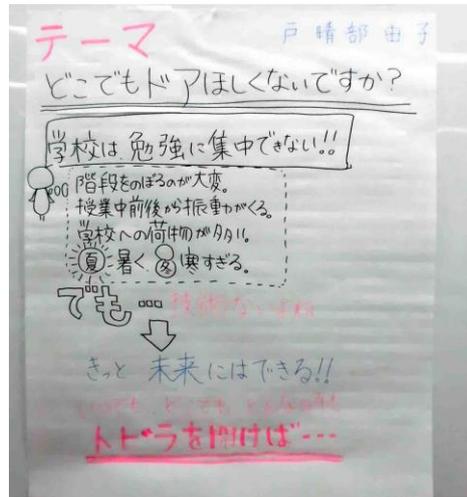
<その他のidea>

- ・町を楽しくする
- ・歩きスマホ専用歩道
- ・スマホ利用スペース
- ・~~画面~~画面を見ずにメールの返信をするシステム
- ・自動的に目的地に行けるシステム など

④ チーム名「戸晴部由子」 テーマ:<どこでもドアはほしくないですか?>



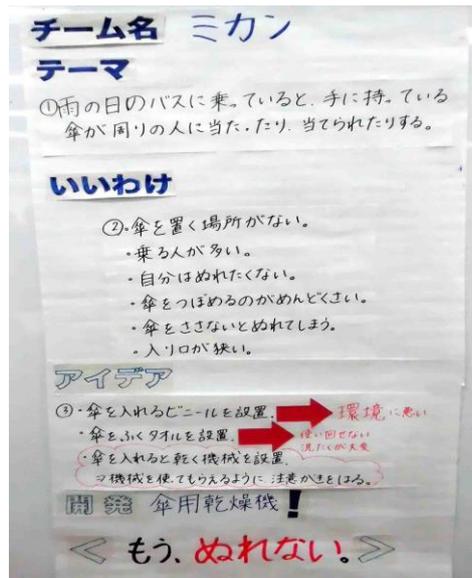
1 原 胡太郎	豊田北部小学校
2 佐々木 嶺	袋井北小学校
3 鈴木 紅香	向陽中学校
4 樽林 晴翔	浜松学芸中学校
5 馬場 朝凨	東部中学校
6 鈴木結子	附属浜中学校



⑤ チーム名「ミカン」 テーマ:<雨の日のバスの傘>



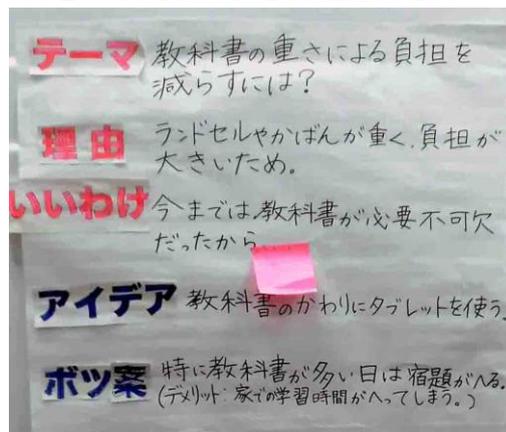
1 山本 萌寧	湖西中学校
2 児玉 拓海	浜松学芸中学校
3 宮崎 天花	城山中学校
4 鶴見 明樹	曳馬中学校
5 久野 琥太郎	東部中学校
6 鈴木 葵	附属浜中学校



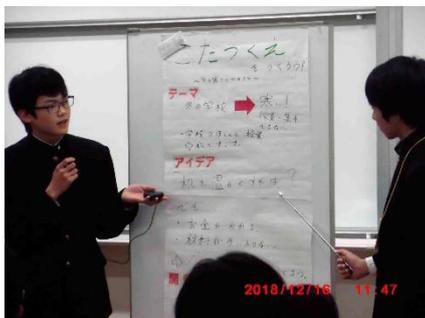
⑥ チーム名「カレーパフェ」 テーマ:<教科書のおもさによる負担を減らすには?>



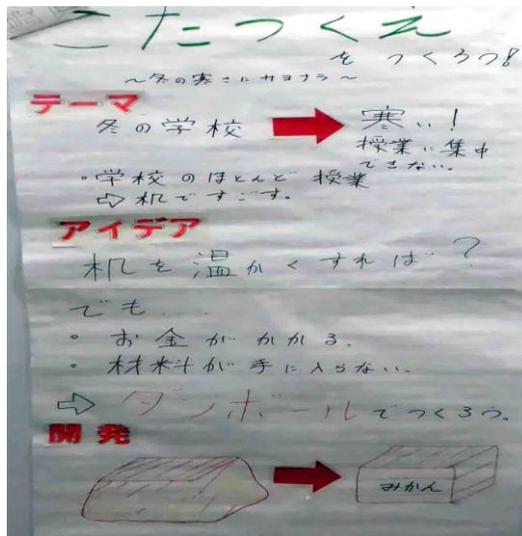
1 藤原 舞音	新居小学校
2 大河内 一龍	磐田中部小学校
3 犬塚 伊吹	与進中学校
4 神谷 祐輔	附属浜中学校



⑩ チーム名「ハヤブサ」 テーマ:<こたつくえ>



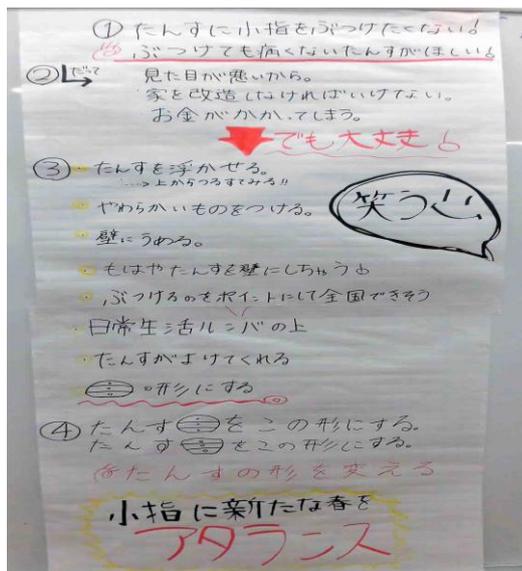
1	伊藤 和樹	大坂小学校
2	瀬下 天童	気賀小学校
3	落合 穂花	附属浜中学校
4	難波田 良紀	蜷塚中学校
5	三浦 倫宏	積志中学校



⑪ チーム名「UME RAICE」 テーマ:<たんすに小指をぶつけない!>



1	落合 美琴	磐田西小学校
2	中村 桜沙	内野小学校
3	磯部 神威	浜松学芸中学校
4	金原 エレナ	積志中学校
5	増子 裕大	東部中学校



解説

受講生の皆さん、プレゼンテーションスキルアップ講座の受講、ありがとうございました。

どのチームも、必要なディスカッションを成し遂げて、素敵なプレゼン資料を作成することができました。ディスカッションでは「グランドルール」に基づいて、協力し合う姿勢で臨み、限られた時間の中で資料を美しく仕上げる力を発揮しました。

開発してプレゼンしたアイデアも、どのチームも個性にあふれ、ユニークなものを提案できました。大人でも難しいテーマに果敢に挑み、本当によく頑張りました。1人だけでは到達が難しくても、チームの仲間と協力して取り組めば、スタート時には思いもよらなかったアイデアを創造できることが実感できたと思います。また、他の人や他のチームが発表している間、それに真剣に耳を傾けることができました。

これらは、皆さんが思っている以上に、素晴らしい成果です。

講座では、「自分たちのチーム名を決定する」という単純なテーマでも、チーム内の他の仲間の提案をきちんと聞くことや、相手の意見を受け入れること等を通じて、チームとしての結論を得なくてはならない難しさを体験できたと思います。特にはじめて会う人とチームを組んで活動するという難しいことにもチャレンジしました。

もしかしたら、普段学校で勉強しているときには、あまり意識しないかもしれませんが、私たちの社会では、「誰か1人の意見だけを採用する」ということではなく、たとえ結果的に同じ結論だったとしても、その社会を構成するそれぞれの人の意見や、場合によっては反論にもしっかりと耳を傾けながら、できる限り話し合った上である結論をまとめる、というプロセスを大切にしています。だから、少数意見に立つ立場の人（「マイノリティ」という言い方をすることもあります）も、安心して生きることができるのです。「意見を持っていそうだけれども、どこか言い出しにくそうだな」と感じたら、その人が意見を安心して言えるような環境を作っていくことも大切なスキルであり、能力です。

講座でも学んだように、プレゼンは一人で行うものでは決してありません。聞く人がいて初めて成り立つものでもあります。プレゼンを聞く人にこそ大事な役割があります。他方、話し合いやディスカッションは、決して楽なプロセスではありません。講座の途中で、もしかしたらふと、「いつそのこと誰かが結論を決めてくれたら楽なのに…」と感じた瞬間があったかもしれませんが、全員があきらめずに最後まで取り組めたことに敬意を表したいと思います。

本講座では、①プレゼンのためのディスカッション力を高めること、②プレゼンスキルを高めること、の2つを目標に設定しました。しかし、もちろんこの2つの目標は、国語や算数などの学びと同じように、講座を1日受けてすぐに完成するものではありません。大切なことは、この講座で学んだことをスタートにして、自分なりにレベルアップを心がけることです。皆さんのこれからの学びに期待しています。

（中村美智太郎）

編集部子ども記者より

今回の講座でプレゼンテーションのコツを掴んだことで、これまで緊張してうまく話せなかった人も、土台ができ堂々と発表することができるようになりました。また、それぞれのグループで初対面であるにも関わらず、ユニークで楽しいグループ名を付け、協力してディスカッション、発表を行うことができました。一人一人のもつ個性や考え方を活かし合い、認め合うことができました。認め合うことの大切さ・楽しさを実感する講座でした。この講座を開いてくださった方々、中村先生、そして参加した仲間の皆さん、貴重な体験をありがとうございました。

トップガンジャーナル子ども記者
附属浜松中学校2年 鈴木 結子